



## 2014(平成26)年度 Qualifying Examination (QE) 実施結果報告

グリーンアジア国際リーダー教育センター 助教  
**山本 圭介**

グリーンアジア(GA)国際戦略プログラムの特徴の一つが、ステージゲート制である。一般的な博士課程教育(修士課程を含む)では、修了および学位取得に必要とされる大きな関門は修士論文・博士論文それぞれの学位審査の計2回であるが、GAプログラムではそれぞれ主旨の異なる計5回の関門(ステージゲート)が設けており、これによって教育の水準・質の継続的な保証を目指している。GAプログラムでコース生が初めて挑むステージゲートが、入学後約2年経過時に行われるQualifying Examination(QE)である。時期的には、一般学生の修士論文試問会と同時期であるが、その目的・内容は大きく異なっている。修士論文試問会は修士の学位授与審査であるのに対して、QEは今後のGAカリキュラムを履修する上での基礎的能力を身に付けているか(身に付けてきたか)を認定(qualifying)する試験である。このため、QEで課される項目は、質・量ともかなり高い。まず、コース生がQEに臨むためには、「必修単位を40単位以上取得(詳細は表iを参照)」という受験要件を満たさなければならない(一般学生の修士修了要件は「30単位以上取得」)。受験要件を満たしたコース生は、QE本番で「1. 講究(研究室ローテーション)の成果発表報告」「2. プラクティススクール(インターンシップ)の成果発表報告」「3. 小論文試験」「4. 専門科目筆記試験」が課せられる。これらに加えて「5. 取得単位のGPAが3.0以上」という要件を満たして、晴れてコース生はQEに合格し、続く3年間のカリキュラム(博士後期課程)に進級できることになる。

2015年2月12日に、2期内部進学生のQEが行われた(図I)。今回は新たな試みとして、博士後期課程からの編入コース生の募集も行った。編入コース生については、通常のコース生との間で入コースの難易度に著しい差が生じないようにルールを定めた。つまり、編入希望学生に対しても、QE受験並びに編入コースの最低限

の要件として表iをそのまま(「インターンシップ参加」や「人文社会系の単位を一定数以上取得」も含めて)課している。もちろん、編入コース希望学生が履修してきた科目はGAコースで用意しているものとは当然異なることが想定されるので、単位区分の読み替え等ある程度の配慮は行っている。今回は、九大総理工の「エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム(通称:キャンパスアジアEEST)」を履修し、修士のダブルディグリーを取得見込みである2名の学生がGAへの編入コースを希望し、6名のGAコース生とともにQEに臨んだ(表ii)。

今回のQEでは、残念ながら1名の学生が合格基準(表i)に達しなかったため、不合格とした。QEには不合格となったものの、前年に定めた学位授与・進路選択のルールに沿って当該学生には修士号が授与され、また本人の意思により通常の博士後期課程へと進学している。

運営体制としては、前年QEの過密スケジュールの反省を踏まえ、早い段階での準備を進めた結果、コース生・スタッフともに前年ほどの負担がかかることは無かった。次回は、2期留学生のQEが2015年8月に控えている。留学生のQEは初めてであるため、1期生の時のような過密スケジュールが生じることの無いように、着々と準備を進めている。

表ii) 2期生(内部進学生)のQE対象者/受験者/合格者 2015年2月12日

対象者総数	受験者	合格者
9 (2) 内訳 量子プロセス理工学専攻:6(1) 物質理工学専攻:1 環境エネルギー工学専攻:1(1) 資源システム工学専攻:1	8 (2)	7 (2)

※うち( )内は編入希望者

表i) QEの受験要件と合格要件

受験要件
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の単位を含む40単位以上の修得</li> <li>(1) 実践英語科目 3単位</li> <li>(2) 実践産業科目 3単位</li> <li>(3) インターンシップ科目 2単位</li> <li>(4) 研究科目 6単位</li> <li>(5) 社会・環境・経済システム学科目から10単位</li> <li>(6) 主専門・拡張専門科目から16単位 (内部進学生については、入コース前に履修した専門系科目を含む)</li> <li>・メンターによる所見書の提出</li> </ul>
合格要件
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 上記40単位のGPAが3.0以上</li> <li>(2) 講究(研究室ローテーション)の成果を口頭発表</li> <li>(3) プラクティススクールの成果を口頭発表</li> <li>(4) 小論文</li> <li>(5) 自身の専門分野に関する筆答試験</li> </ul>



図I) 2014年度QE(2015年2月12日、2期内部進学生対象)